

第2回「製油所の脱炭素化研究開発」
中間評価検討会

議 事 要 旨

1. 日 時 令和5年8月3日（木）16：00～17：00

2. 場 所 オンライン

3. 出席者

（評価検討会委員）〔敬称略・五十音順〕

座長 増田 隆夫 北海道大学 理事・副学長

鎌田 博之 株式会社 IHI 技術開発本部 技術企画部 企画推進グループ 主幹

酒井 奨 一般財団法人エネルギー総合工学研究所 プロジェクト試験研究部

炭素循環エネルギーグループ 副主席研究員

関根 泰 早稲田大学 先進理工・応用化学 教授

（研究開発実施者）

秋本 淳 JPEC製造プロセス技術部 部長

中村 博幸 JPEC製造プロセス技術部 上席主任研究員

加藤 洋 JPEC石油基盤技術研究所ペトロリオミクス技術研究室 室長

（事務局）

資源エネルギー庁資源・燃料部燃料要求基盤整備課

課長補佐 信末 直人

係長 林 賢利

（評価推進部署）

産業技術環境局研究開発課

技術評価係長 浅野 常一

技術評価専門職員 渡辺 智

4. 配布資料

資料1 評価報告書（案）

5. 議事概要

（1）開会

（2）評価報告書（案）について

事務局から、「資料1 評価報告書（案）」について説明があり、その内容について審議が行われ、一部修正を行うこととして了承された。追加的な修正については座長一

任で行うこととされた。

主な質疑等は以下のとおり。

- アウトカム目標のCO₂の削減量 400 万トン是世界最先端の製油所の効率に合わせて設定したとのことだが、今回の技術開発でその目標に到達できるのかという説明があると納得感がある。また、共処理については、どのくらい水素量が増えるのか、数値を抑えておくが良い。
- 環境へのインパクトについては欧米が提案した手法もあるが、製油所で廃プラスチックなどの廃棄物を技術によって資源化して用いることにより、今までの廃棄物として処理量が大きく削減されると言ったオリジナルな評価指標を加えられると良いと思う。製油所の外に対してどういう形で影響与えるのか、共処理のアドバンテージが出てくる。

(3) その他

事務局から、本評価検討会で了承された評価報告書は、産業構造審議会産業技術環境分科会研究開発・イノベーション小委員会評価ワーキンググループに報告された後、経済産業省ホームページに公開されるとの説明があった。

(4) 閉会

以上

お問合せ先

資源エネルギー庁資源・燃料部燃料要求基盤整備課

電話：03-3501-1993